

4. 観 測 表

月 日	時刻	位置	天気	雲量	風 向	風力	気温(℃)	湿度(%)	波浪	水温	比重	水色
11月10日	13	トカシナ 港 内	B0	4	N	2	24.9		2	24.8	2715	8
	16	"	"	3	N	"	763.1 24.6 763.2		"	24.4	2693	8
11月11日	8	"	B	2	N	2	24.2 763.4		"	24.7	2482	8
	12	"	0	10	N	4	24.0 765.0		3	24.8	2572	8
	16	"	"	0	"	5	23.8 76.6		4	24.2	2534	8
11月12日	8	"	"	"	"	22.9 764.5		5	24.2	2596	7	

(9) 「水するる」の生態調査並に活魚試験

1. 方 法

A	使用漁船	備后 大 島 丸	30トン 65HP
B	漁 法	棒 受 網	
C	漁 期	6月19日	
D	漁 場	運 天 港	

2. 調査概要

調 査 位 置	調 査 時 間	
$R12^{\circ} - N26^{\circ} - 40' - 12^{\circ}$	6月20日	19時45分以降明瞭まで
$R12^{\circ} - 10' N26^{\circ} 37' - 54^{\circ}$	6月21日	20時 "
$R12^{\circ} - 12' N26^{\circ} - 58' - 24^{\circ}$	6月22日	20時 "

(イ) 「水するる」の生態調査

全 長	60MM(mm)	尾 鰭	23 ~ 24条
体 長	51MM	背 鰭	14条
体 高	8MM	胸 ビレ	13条
体 重	144(μg)	腹 ビレ	15条
股 ビレ	16条		

口の周囲の線には小羽の歯があり、胸鰭の末端より尾の方へ6つの刺がある。股鰭の根元に15箇位の黒点が付着し背鰭後端は股鰭前端と稍すい直下顎は短く鰓蓋の界より尾鰭迄銀白色の横線が通っている。

(ロ) 集魚状況及び採捕高

大雨直后で運天池内は至る処濁り水色悪く其の上点灯設備が不十分で一般的に集魚率は悪く最初にキビナゴが表面に集り次いで水するるが其の下方に集魚する傾向があつた。

取 獲	集 魚 高	採 捕 高
キビナゴ	2.0斤(約)	1.0斤
水するる	不 明	0.00尾

殆んどキビナゴ、水するるで其の内でもキビナゴが最多数を示している様だが中層に來游した水するるは透明度が低く透視困難で数量不明。

(c) 活力試験

器具は蕃養網で場所は運天池、同試験は下記の結果を得たが、尚氣象海況については第二表の通りである。

第 一 表	魚 種	試 験 位 置	数 量	採捕時間	放養時間	引揚時	所要時間	斃 死 率
一	水するる	N25° - 37'40"	500尾	6月12日	1時45分	9時45分	8時間	0.0%
	キビナゴ	N128°E - 35"	10斤	1時40分	／	／	／	4.0%

第二表 氣象及海況

第 一 表	天 候	雲 量	風 向	風 力	氣 温	氣 圧	水 温	比 重	透 明 度	水 色	波 浪	底 質
	B0	6	SE	2	27°	1015.5	26.3	2368	6mm	5	2	M

所 感

1954年7月金沢湾で捕獲した「水するる」と同種で同じ大きさである、依つて度々調査を実施すれば同魚の産卵期、産卵場所及び回游状況、活力等詳細な調査が出来るものと考えられる。(卵巣発達せず未成熟のものであるものから推して本年度生れのものと思われる)

- (1) 調査の時期が悪く前記の通り透視困難で集魚捕獲率が思わしくない。
- (2) 形類は1954年7月金沢湾で捕獲された「水するる」と同様であることが判明した。
- (3) 同「水するる」に対しては学術でも参考文献が少く又琉球産で其の名称が与えられ生態についても詳しい説明がないため是等についても年次調査を行い回游産卵場所等出来れば詳細な調査が必要である。
- (4) 「舌力」に対しても度々問題とされ今までに何度か調査されたが成果は期待出来なかつた。これについては将来大規模な蕃養施設も考慮し魚を「ならす」必要がある